

アイヌの人たちの歴史・文化等に関する学習の一層の充実に向けて

北海道教育庁学校教育局義務教育課作成 NO.1

この資料は、道内の小中学校の総合的な学習の時間における優れた学習活動や貴重なアイヌ民俗文化財を紹介し、学校教育におけるアイヌの人たちの歴史・文化に関する学習の一層の充実につながることを目的に作成するものです。

□ アイヌの人たちが長い歴史の中で培ってきた文化の紹介

～アイヌの人たちの伝統舞踊・アイヌ古式舞踊～

国の重要無形民俗文化財に指定、ユネスコ無形文化遺産代表リストに記載されているアイヌの人たちの伝統舞踊は、きわめて古い形態をとどめているものが多いことから、アイヌ古式舞踊と呼ばれています。

アイヌの人たちの伝統的な信仰観では、「歌や踊りは人間が楽しむだけのものではなく、カムイ（神）も見て楽しむ」と言われています。アイヌの人たちにとっての舞踊は、人間と神々を結ぶ一つのコミュニケーション手段として発達してきたということが言えます。

※参照『日本文学史』『歌謡の伝承―十勝』（岩波書店）



北海道アイヌ古式舞踊連合保存会制作
「アイヌ古式舞踊写真集」帯広カムイトウボポ保存会

■ アイヌの人たちの歴史・文化に関する学習の紹介

鹿追町立瓜幕小学校

学習の概要

アイヌ文化を体験したり、調べたりしたことを発表する取組

〔学習のねらい〕

アイヌ文化について触れる体験活動や調べ学習を通し、アイヌの人たちや十勝の歴史・文化についての理解を深め、郷土に対する愛着や誇りを育む。

〔総合的な学習の時間における学習の概要〕

単元名「さまざまなアイヌ文化を体験して、学んだこと、調べたこと、感じたことを発表しよう」

実施学年：第3・4学年 実施時数：10時間

学習過程	主な学習活動
課題把握	○アイヌ語の絵本等の読み聞かせでアイヌ文化への興味を高め、校内のアイヌ文化博物館を見学し、体験したいことや、調べたいことを決める。
情報の収集	○アイヌの歌、踊り、ムックリ作りなどの体験や、アイヌ文化について、講師へインタビューをする。 ○校内のアイヌ文化博物館で、アイヌ文化を調べる。
整理・分析	○体験したことや、調べたことを整理し、学習発表会でプレゼンテーションをする準備をする。
表現・まとめ	○学習発表会において、アイヌの歌や踊り、儀式、言葉などをクイズで発表する。



帯広カムイトウボポ保存会による
アイヌ文化（踊り）の体験

〔学習の成果〕

事後アンケートで「北海道や今住んでいる地域は好きですか」という設問で、児童全員が肯定的に回答したり、保護者から「家族の前で、楽しそうにシカ笛やムックリを鳴らしていた」という声が聞かれたりするなど、児童のふるさとの歴史や文化への興味・関心が高まりました。

アイヌの人たちの歴史・文化等に関する学習の一層の充実に向けて

北海道教育庁学校教育局義務教育課作成 NO.2

この資料は、道内の小中学校の総合的な学習の時間における優れた学習活動や貴重なアイヌ民俗文化財を紹介し、学校教育におけるアイヌの人たちの歴史・文化に関する学習の一層の充実につながることを目的に作成するものです。

□ アイヌの人たちが長い歴史の中で培ってきた文化の紹介

～様々な自然素材から作られてきた衣服～

アイヌの人たちの伝統的な衣服は、獣・魚・鳥の皮、鳥の羽毛、樹木や草の内皮からとった繊維を素材とするように、自然の恵みを有効活用してきました。この中で、オヒョウ（ときにはシナノキも）の樹木の内皮の繊維をもとに作ったアットゥシが有名です。本州方面などから木綿が入手できるようになると、木綿を素材とする衣服が多く作られるようになりました。

博物館などで展示されている、様々な文様が施された衣服の多くは、儀式などの時に着る晴れ着として用いられたものです。労働など普段の暮らしで着た衣服には、文様はあまり見られません。

※『ボンカンピソシ2, 8』

（北海道立アイヌの人たち文化研究センター編）一部改変引用。



アットゥシ （公財）アイヌ文化財団蔵

■ アイヌの人たちの歴史・文化に関する学習の紹介

平取町立平取小学校

学習の概要

体験的な学習を通して、アイヌの人たちの生活の知恵や工夫について理解を深める取組

〔学習のねらい〕

アイヌの人たちの歴史や文化等に関わる施設見学や体験的な学習等を位置付けた探究的な学習活動を通して、アイヌの人たちの生活の知恵や工夫について理解を深めるとともに、ふるさとに対する愛着や誇りをもつ。

〔総合的な学習の時間における学習の概要〕

単元名「アイヌの人たちの伝統的な生活について調べよう」

実施学年：第4学年 実施時数：18時間

学習過程	主な学習活動
課題把握	○社会科で学習した「昔のくらしと町づくり」を踏まえ、アイヌ文化について個人課題を設定する。
情報の収集	○アイヌ博物館・沙流川歴史館の見学や、学芸員へのインタビュー活動を通して、情報を集める。 ○「アットゥシ織体験」を通して、アイヌの人たちの生活の知恵や工夫にふれる。
整理・分析	○見学やインタビュー活動、体験的な学習の成果を新聞にまとめる。
表現・まとめ	○まとめた内容を学級内で交流し、成果を共有する。



アットゥシ織を体験する児童

〔学習の成果〕

学習過程に施設見学やアットゥシ織など、体験的な学習を位置付けたことにより、探究的な意欲が一層高まり、アイヌの人たちの生活の知恵や工夫についての理解を深めたり、ふるさとに対する愛着や誇りをもったりすることができました。

アイヌの人たちの歴史・文化等に関する学習の一層の充実に向けて

北海道教育庁学校教育局義務教育課作成 NO.3

この資料は、道内の小中学校の総合的な学習の時間における優れた学習活動や貴重なアイヌ民俗文化財を紹介し、学校教育におけるアイヌの人たちの歴史・文化に関する学習の一層の充実につながることを目的に作成するものです。

□ アイヌの人たちが長い歴史の中で培ってきた文化の紹介

～神々の護りに感謝し平和な暮らしを願う「カムイノミ」～

アイヌの人たちは、天然現象や動植物、人間の作る道具などすべてに「魂」があり、カムイ（神）の国から使命を担って姿かたちを変えて地上に降りてきていると考えました。その魂は人間にとって有益なものだけでなく、天災や病気などにもあり、このうち、人間の生活に必要なもの、人間の力の及ばない事象をカムイとして敬いました。

カムイへの頼みごとやお礼など、人間から伝えたいことがあるときに「カムイノミ」（神への祈り）を行います。

※『ポンカンピソシ5』（北海道立アイヌの人たち文化研究センター編）参照・一部改変引用。



「ペツカムイノミ」（主催登別アイヌ協会）

■ アイヌの人たちの歴史・文化に関する学習の紹介 妹背牛町立妹背牛小学校

学習の概要

調べたことをポスターセッションで発信する取組

〔学習のねらい〕

アイヌの人たちの歴史や文化について、体験活動や資料等で調べたことをポスターセッションで地域に発信することで、アイヌの人たちの歴史や文化への理解を深めるとともに郷土への愛着を育む。

〔総合的な学習の時間における学習の概要〕

単元名「ふるさとの歴史を見つめよう」

実施学年：第3学年 実施時数：16時間

学習過程	主な学習活動
課題の設定	○グループで、調べたいことをKJ法を使って整理し、課題を設定する。
情報の収集	○アイヌ文化活動アドバイザーから歴史や文化を学んだり、町史等から必要な情報を集めたりする。
整理・分析	○収集した情報をマルチプランシートを活用して分類、整理して、ポスターにまとめる。
まとめ・表現	○「郷土妹背牛祭」において、ポスターセッションを行い、地域の人たちに発信する。



郷土妹背牛祭でのポスターセッション

〔学習の成果〕

事後アンケートで「アイヌの人たちの歴史や文化についてもっと調べたいと思いますか。」という設問に対して、「思う」と回答した児童の割合が、学習前より6ポイント上回るなど、アイヌの人たちの歴史や文化に対する児童の興味・関心が高まりました。

アイヌの人たちの歴史・文化等に関する学習の一層の充実に向けて

北海道教育庁学校教育局義務教育課作成 NO.4

この資料は、道内の小中学校の総合的な学習の時間における優れた学習活動や貴重なアイヌ民俗文化財を紹介し、学校教育におけるアイヌの人たちの歴史・文化に関する学習の一層の充実につながることを目的に作成するものです。

□ アイヌの人たちが長い歴史の中で培ってきた文化の紹介

～アイヌ語の表記で小文字があるのはなぜ？～

アイヌ語を表記する文字は、かつてありませんでしたが、日本語の表記に中国の漢字を取り入れたように、アイヌ語の表記は、現在カタカナとローマ字が使われています。アイヌ語のカタカナ表記には、小文字で表されているものがありますが、これは、日本語にはほとんどない、母音が付かない音を表しています。

「ユーカラ」としてよく知られている、アイヌの人たちに伝わる口承文芸のうちの「ユカラ」（英雄叙事詩を指す呼び名の一つ）は、ローマ字で書くと「yukar」となり、「r」で終わっています。「ura」とは、区別するために小文字が使われています。

※参照『ポンカンピソシ6』（北海道立アイヌの人たち文化研究センター編）



■ アイヌの人たちの歴史・文化に関する学習の紹介

苫小牧市立明德小学校

学習の概要

アイヌの人たちの歴史・文化について調べたことを新聞にまとめ、発表する取組

〔学習のねらい〕

アイヌの人たちの歴史・文化について、体験活動等や調べ学習を通して学んだことを新聞にまとめ、発表することにより、アイヌの人たちの歴史・文化についての理解を深め、郷土への愛着や誇りを育む。

〔総合的な学習の時間における学習の概要〕

単元名「調べよう！アイヌの人たちの歴史・文化」

実施学年：第4学年 実施時数：7時間

学習過程	主な学習活動
課題把握	○社会科における学習内容や体験活動等を基に、アイヌの人たちの歴史・文化について、個人課題を設定する。
情報の収集	○講話や体験活動を通して、アイヌ語の文字やムックリ等の個人課題について調べ、情報を収集する。
整理・分析	○集めた情報をウェビングマップ等の思考ツールを活用して、分類し整理しながら、自分の考えや感想をまとめる。
表現・まとめ	○一人一人が新聞を作成し、調べて分かったことについて発表し合い、郷土への理解を深める。



ムックリの体験

〔学習の成果〕

アイヌの人たちの歴史・文化についての体験活動や調べたことを新聞にまとめ、発表する学習を行ったことにより、児童のアイヌの人たちの歴史・文化に対する理解を深めるとともに、地域の歴史や自然に対する興味・関心を高めることができました。